

研究の大きな問い「どうすれば児童の「体育の見方・考え方」を育むことができる？」

問いに対する大きな答え

児童が

- ①「人・もの・こと（種目）」と「かかわり」のある授業の中で
- ②「できた」「分かった」の実感（自分の言葉で語る）ができれば



作業仮説（研究の方法と内容）

じゃあ「人・もの・こと（種目）」との「かかわり」のある授業って？

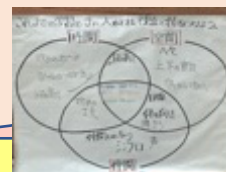
○授業の準備力・授業デザイン
(研究の内容①)

- ①教師がしっかり単元のゴールを描く。
(単元を通して目指す資質・能力の明確化)。
- ②単元の評価規準(本時の指導内容・学習内容)の明確化。
- ③1時目の工夫(運動との出会い方の工夫、単元を貫く問いの設定)。
- ④主運動につながる運動遊びの工夫。

児童が「できた」「わかった」を実感するためには？
(児童が自分の言葉で語るためには？)

○教師の授業中における価値付け・視点の共有
(研究の内容②)

- ①思考のフローチャート図の作成
- ②評価規準に基づく、毎時間の判定基準の具体化。
- ③児童のふりかえりから、視点の共有。
- ④学期ごとのポートフォリオの実施。



体育の授業時間以外の取り組みは？

○余暇時間の過ごし方

- ①SEタイムによる運動遊びの奨励
- ②佐賀県スポーツチャレンジへの参加
- ③体育の学習で取り組んだ種目を学級活動や自主学習などに広げる。



検証方法（どうやって問いの答えを見とるの？）

① 児童の学び方の変容

・単元の中で児童の毎時間のふりかえりにどのような変化が見られたのか。

例 単元ははじめは「楽しかった」「勝てなくて悔しかった」のように情意面の記述をしていた子が、「スペースが空いているところにパスを出すとスムーズにボールが繋がった」のように具体的な記述ができるようになった。

② 視点(運動の見方・考え方)を用いながら記述した数が、単元を通してどのくらい延びたか、自分の状況に応じた記述ができていくか。

例 バスケットボールの場合・・・どこを見る スペース シュートの位置 パスの長さ 仲間との距離

③ 児童にどんな見方・考え方が身に付いたか。

・単元のふりかえり「どんなことが楽しかったのか」「何が身に付いたのか」

・ポートフォリオ(学期ごと)

例 バスケットボールとハンドボールの共通点を記述している。

・自主学習や休み時間、学級活動などに学んだことがどう生かされている？

例 自分で学んだ運動についてさらに調べたり、友達と戦術について話したりしている。 休み時間や学級活動(例スポーツ大会)などで学んだ運動をさらに楽しんでいる。

